

令和7年度 自己評価計画書

石川県立鹿西高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	学習習慣の確立と教科指導力の向上 ・学ぶ楽しさや充実感、達成感によって笑顔が得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て、進んで学習に向かう力を育成する。 ・若手教員早期育成プログラム、中高連携（中能登中学校との学習交流会等）、他校への授業参観、大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。 ・GIGA 校内研修推進リーダーを中心とした校内研修を通じて、一人一台端末環境を生かした授業改善に取り組み、学びの質の向上を目指す。	① 研究授業・相互参観授業並びに協議会を計画的に行い、全教員の組織的な授業研究によって、思考力を高める授業を展開する。	教務課 全教員	主体的な学びを促す、より効果的な取り組みが求められる。研究授業・相互参観授業等も実施しながら、思考力・判断力・表現力につながる実践を行っている。	【努力指標】 思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業を展開する。	【教員】思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業を毎回行っていると答える教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
		② 生徒による授業評価結果を授業改善に生かし、学習意欲と学力の向上につなげる。	教務課 全教員	生徒の学習意欲と学力の向上は喫緊の課題である。授業評価の結果が低いわけではないが、自身の実践を客観的に振り返り授業改善に取り組む必要がある。	【成果指標】 生徒は授業に動機づけられ意欲的に学習に取り組んでいる。	【生徒】授業が動機づけとなり意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
		③ 家庭学習時間や出席状況を把握し、その調査結果を全教員が共有し、生徒個々への指導・助言・相談に携わる。	進路指導課 全教員	家庭学習時間に関する調査結果を全教員で共有しながら、生徒の現況に応じた学習指導をする必要がある。	【成果指標】 生徒が、平日の家庭学習時間において以下の目標を達成している。 前期 1年 90分 2年 110分 3年 130分 後期 1年 100分 2年 120分 3年 150分	【生徒】目標家庭学習時間を達成した生徒が A 55%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合は改善策を検討	定期的に平均学習時間を調査
		④ 校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を通してICT活用指導力の向上を図る。	教務課 全教員	ICTを利用した授業はかなり実施されているが、さらに学習効果を高めるための取り組みを工夫する必要がある。	【満足度指標】 ICTを用いた授業が生徒から高く評価されている。	【生徒】授業でICT機器を使い、学習効果があがっていると感じる生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合は改善策を検討	7月と12月に調査

重点目標		具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、「日本一 生徒が伸びる 鹿西高」を目指す	① 総合的な探究の時間でのフィールドリサーチや地域でのボランティア活動、地域に開かれた学校祭等を通して、豊かな人間性や社会性を育む。	学校運営協議会 全教員	フィールドリサーチを積極的に行っており、地域の方々と交流する機会が多い。地域からのボランティアの要請が多く、希望者を募って参加している。これらの活動を人間性や社会性を高める機会としたい。	【満足度指標】 生徒が主体的に各種活動に参加し、人間性や社会性が高まったと感じている。	【生徒】フィールドリサーチやボランティア活動を通して人間性、社会性が身についたと考えている生徒の割合は A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	・保護者や地域とのつながりを活かして、総合的な探究の時間、学校行事、部活動、ボランティア活動で生徒の学びを深め、豊かな人間性や社会性を育む。 ・保護者や地域とともに本校が行う活動や小学校・中学校との交流機会を増やし、本校の教育活動に対する理解が深まるように努める。	② 問題を抱えている生徒に対して、生徒課・保健相談課・担任・学年主任が連携するとともに全教員で解決にあたり、生徒の豊かな人間性や社会性を育む。また、悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。	生徒課 保健相談課 全教員	いじめ等の問題や心の問題を抱える生徒への支援については、組織的に対応しているが、よりきめ細やかで早期の対応が求められる。	【成果指標】 生徒が意欲的に登校できるように組織的な支援を行っている。	【教員】各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	・保護者や地域とともに本校が行う活動や小学校・中学校との交流機会を増やし、本校の教育活動に対する理解が深まるように努める。	③ ホームページを中心に広報活動を充実させ、本校の教育内容を保護者や地域の方々、小中学生等に理解してもらう。	学校運営協議会 全教員	ホームページや学校だよりの配付・配信等で広報活動を行っているが、より一層広報活動を充実させる必要がある。	【満足度指標】 ホームページを中心に、各種文書を見る保護者が多くなり教育活動への理解が深まる。	【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	・広報活動の充実を図り、本校の特色や魅力を伝え、本校への志願者を増加させる。	④ 中学校での学校説明会や、各地区の学校説明会で本校の特色や魅力を伝える機会を増やし、本校への志願者を増加させる。	学校運営協議会 全教員	近年志願者数の定員割れが続いており、本校へ通いたい、通わせたいと思う中学生・保護者を増やす必要がある。	【成果指標】 本校の特色や魅力をよく知ってもらい、本校へ通いたいという生徒を増やす。	【志願者数】本校への志願者数が、今年度の志願者数（75名）に比べて増加した割合が A 15%以上 B 10%以上 C 5%以上 D 5%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	3月の志願者数で調査
		⑤ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することで、教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。	学校運営協議会 全教職員	学校運営協議会と協働して、業務の平準化や行事・業務の見直し等を行い、効率的でより効果的な業務遂行が求められる。	【成果指標】 学校運営協議会と学校が組織的に業務効率改善に取り組むとともに、教員の業務効率化意識が高まっている。	【教員】学校運営協議会と学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が A 75%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3	防災教育の充実	①	中能登町危機管理課や関係各所と連携して地域防災訓練等を実施することを通して、生徒の防災意識を高めるとともに、安全・安心な学校づくりを推進する。	総務課 全教職員	これまでも中能登町と連携した取組を進めており、新設の危機管理課と連携して防災教育を充実させたい。	【成果指標】 安全・安心な学校づくりに向けて生徒の防災意識が高まっている。	【生徒】地域防災訓練などの取組を通して、防災意識が高まったと答える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	<ul style="list-style-type: none"> 甚大災害を想定した避難訓練及び避難計画の見直しを行い、安全・安心な学校づくりに向けた活動を推進する。 教職員・生徒が非常時に適切な行動ができる資質・能力を高める。 	②	地域と連携した複数回の防災訓練や外部講師による講演、公民科・保健体育科・家庭科等の授業を通して、防災教育を推進する。防災教育を通して、自助・共助の行動ができるようにし、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解する。	総務課 全教職員	従来は1年に1度の避難訓練のみであり、防災意識や防災に対する理解が深まっていなかったため、防災教育を充実させる必要がある。	【成果指標】 生徒が、災害や防災についての基礎的・基本的理解を深めている。	【生徒】防災訓練、講演会、授業等の防災教育を通して、災害や防災についての基礎的・基本的理解が深まったと答える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査